

会 議 録

会議の名称	第6回 中野市総合戦略会議
日 時	平成27年10月30日(金) 18:30~20:37
会 場	市民会館42号会議室
出席者等	<出席者> 委員：前澤憲雄(会長)、上野見(副会長)、高橋一隆、小野建一、宮川浩、関貴彦、 渡辺信也、山口和彦、山下健一、本間直幸、相子靖子、吉原明彦 市：大堀総務部長、小橋政策情報課長、柴本、青木 <欠席者> 委員：山浦直人、三枝康雄、山口美緒、内山奈月
次第	1 開会 (進行：総務部長) 2 あいさつ (会長：前澤憲雄) 3 報告事項(小橋政策情報課長) ・第5回総合戦略会議のまとめ《資料1》 4 会議事項 (1) 中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について《資料2》 5 その他 (1) 効果検証(PDCAサイクル)について (2) 次回開催予定：未定 6 閉会
発言内容	別紙のとおり

【別紙】

第6回 中野市総合戦略会議

平成27年10月30日（金）

18：30～20：37

市民会館42号会議室

1. 開会（18：30）

総務部長	定刻になりましたので「第6回総合戦略会議」を開会します。 ただ今の出席委員数は11名であり、過半数に達していますので会議は成立しております。はじめに、前澤会長からご挨拶をお願いします。引き続き、会長に会議の進行をお願いします。
------	--

2. あいさつ（前澤会長）

会長	これまでの5回の会議を行う中で、事務局の方で総合戦略を作成いただきました。本日は、その総合戦略（案）について審議をお願いしたいと思います。これまでの議論においても、人を呼び込み、仕事を創出し、地域を活性化させていくという方向に向かってご意見をいただいているので、戦略の4つの柱に肉付けされている事業に対し率直な意見をお願いします。
----	---

3. 報告事項

- ・資料に基づき、政策情報課長より一括説明

会長	事務局の説明について、ご質問等お願いいたします。
	(特になし)

4. 会議事項

- (1) 中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

- ・資料に基づき、政策情報課長より一括説明

会長	全体的に市民の方からすれば、馴染みのない言葉等が使用されている。意見として注釈をそのページに表記してあるが、最終ページに一括で表記した方がいい。
会長	資料が多いので、基本目標ごとにご意見をお聞きする。最初に基本目標1についてお願いします。
委員	資料11ページの婚活事業について、参加男性の趣味や仕事などの強みをアピールできるような婚活事業ができればと思う。
政策情報課長	共同作業や農業体験などを盛り込んだ事業を想定している。また、参加者のスキル向上のための婚活セミナーなども検討している。行政でなく市民の方が

	独自に婚活パーティーを実施しているので、そういう主催者にも支援をしていきたい。
委員	近々、テレビで菅平での婚活イベントが放映される。農業などをやっている人に対する都会の女性の考えがわかるので、分析することも有効であり、イメージも湧くのではないか。
会長	菅平の参加者に接遇指導を事前に行ったと聞いている。
委員	総合戦略をどのような形で発信していくのか。子育て支援など多くのことが記載されているが、子育て世代の方は多忙であり、腰を据えて見る時間がない。
政策推進係長	総合戦略は、パブリックコメントや広報なかので情報発信していく。また、子育て分野に限られるが、子育て情報をガイドブックやホームページ等でお知らせすることを計画している。
委員	資料 6 ページについて、戦略の 4 本柱が一番重要な部分であるので、もっとインパクトがある見せ方・伝え方をしたらどうか。
政策推進係長	今年度末に、総合計画と総合戦略の概要版を全戸配布する予定でいる。その際には、見せ方を工夫していきたいと思う。
会長	資料 14 ページの食育について、身体にいい食材を選ぶことができる選食力をつけることが重要である。科学的なものでなく、昔はよく親や祖父母から教えられたものである。それが健康にもつながる。
委員	以前にセミナーを受けた時に聞いた話であるが、音楽に音感があるのと同じで、味覚にもその感覚を強化できる時期があるらしく、10 歳までに自分で料理したものを食べると味覚の感度が高まる。食育の部分で、農業体験だけでなく調理のことも加えてほしい。
会長	続いて、基本目標 2 についてご意見をお願いします。
委員	資料 20 ページについて、若者向けの住宅支援を具体的に教えてほしい。
政策情報課長	資料 21 ページに記載させていただきましたが、定住してもらうには住宅を取得しやすい環境づくりが必要となります。中野市でも空き家が増加しており、若者が住んでもらうための仕組みを作っていきたい。また、移住定住促進住宅整備事業は、土地は用意してもらうが、住宅建築は市で行う。そこに住んでもらい、賃料を払っていくが、何年か住んでいただいたら住宅を引き渡すような制度を考えている。
委員	若者だけなのか。
政策情報課長	空き家バンクなどは全ての方を対象にしている。特に若者に移住していただきたいということで支援していきたい。
政策推進係長	中野市ではこういう施策は行っていない。他の自治体では家賃補助などを実施しているところもあるので、参考にしながら検討していきたい。
会長	空き家をリフォームして体験ハウスとして活用するのも有効である。
委員	空き家のリノベーションは若者世代には魅力である。ハードルとなるのが、空き家に仏壇があるとか、返す時に現状回復しなくてはいけないなど様々理由はある。一方で、若者への支援だけでなく、空き家所有者に対してもメリット

	があるような支援が必要と思う。
政策情報課長	空き家バンクをやっているが、実際に登録してくれる方は少ない。様々な障壁があることは承知しているが、空き家オーナーにとってもメリットが持てるような支援は必要かと思う。
総務部長	空き家オーナーを対象とした説明会を実施したり、借り手が決まった場合の片づけ費用等の補助を実施している。
委員	延徳出身の若者でインバウンド向けのゲストハウスをやりたい方がいて、市役所や商工会議所に行って説明をしたらしい。だが、理解もしてくれない、とりもってくれなかったとのこと。若い世代への支援と謳っているが、チャンスがあると全然感じられない。そういう若者に対するチャンスを現実化できる体制を整備することが重要であり、この状態だと、他市町村に行ってしまう。
委員	須坂に「杵屋」というレストランができて、空き家をリノベーションしたお店がある。地域の資源を活かし、地域に根差した店舗となっている。また、中野出身の方が須坂でパン屋をやっている方もいる。中野で起業できる支援は必要と思う。
委員	行政のバックアップやどういう人材がいるのかなど、相談できる場は必要である。
総務部長	営業推進課に移住定住を担当している職員を配置している。
会長	ニーズに応える体制整備をお願いしたい。
吉原アドバイザー	全て中野市で対応することが難しい部分もある。起業となると、中野市や商工会議所、県でも創業支援をしている。中野市で案内できる仕組みができればいいと思う。最後まで責任を持たないこともあるので、連携していくことが必要である。
委員	資料 21 ページの新規就農への支援について、独自デザインの農作業服を配布し農業の魅力をアップするとあるが、具体的にどのような事業か。
政策情報課長	衣料メーカーとタイアップして、市の独自のデザインのつなぎ等を配布させていただき、イベント等で使用してもらうためのものである。
委員	作業服で農業の魅力をアップさせるという考えがなかったもので、必要ないのではないかと感じた。
政策推進係長	JA 青年部の全国組織で同事業を検討していると聞いている。
委員	つなぎで作業する人と、絶対着ない人がいる。聞いた話だと、ほとんど買っていないと思う。つなぎは排除してもらった方がいい。
委員	施策の中で、特に力を入れて実施していく事業はあるのか。
政策推進係長	個人的な意見も入ってしまうが、移住支援は中野市は弱い部分であるので、県と連携しながら移住のトータルサービスを提供する窓口の設置はしたいと考えている。新規就農については、これまでも手厚く実施してきたが、遊休荒廃農地の解消と合わせて、意欲ある就農者を支援していく。また、新しいライフスタイルの提案や若者への支援など、これまで弱かった部分に力をいれていく。
会長	続いて、基本目標 3 についてご意見をお願いします。

委員	資料 36 ページの中野市版 DMO について、行政が主体となって設立するのか、外部に求めていくのか教えてほしい。
政策情報課長	現在は、市・観光協会・産業公社などそれぞれに PR しているので、それらを一体的にプロモーションしていく組織を整備していきたい。
委員	それぞれの観光組織が出資等して協働組織を立ち上げるというイメージか。
政策情報課長	新たな組織を作るかは今後の検討である。地域の実情を勘案した組織とするため「中野市版」としている。
委員	インバウンド推進事業は、具体的にどのようなものなのか。
政策推進係長	これからという部分が多い。今年度、外国人留学生を招いて市の PR をした。その体験等を SNS で発信してもらうような取組みを初めて実施した。また、長野電鉄沿線活性化協議会で、英語版の PR パンフレットを作成したりしている。今後、取組みを強化していく分野である。
会長	きっかけとかネットワークがないと、インバウンドは広がっていかない。核となる人物が必要だし、ニーズに応える受け皿がないとうまくいかない。そういうものを磨いていく必要があり、ただ来てもらうだけでは駄目である。
委員	ガイドの仕事をする時はインバウンドを中心に行っている。外国人も来てもらえれば楽しんでもらえることもある。スノーモンキーは限定的で、リピーターが少ない。山ノ内町も頑張っているが、うまくいかない部分も多い。
会長	続いて、基本目標 4 についてご意見をお願いします。
吉原アドバイザー	事務的な話であるが、「～推進します」「～検討します」など語尾の締め方に違いがあり、市の決意の違いになっているのか。事業名でも、「～事業」「～推進」など表現が異なっている。
政策推進係長	実施事業の欄は、予算項目を出しているのが基本「～事業」と付いているが、中には無いものもある。統一が取れていないのは承知している。 文章中の推進や検討の使い分けについては、担当課から挙がってくる中で、事務局で全て確認し使い分けている。「検討」は事業を実施することを前提とした検討、研究となると事業を実施するかどうかも含めた研究など、使い分けている。
委員	中野市民に対して、どの事業をクローズアップして取り組んでいくというのを、どのように発信していくのか。また、市外の人に対し、中野市はこういう所だと、言葉にせよ政策にせよ、どのように発信するのか。見た人が来たい、住んでみたいと感じてもらえるようなものが必要であるが、パッションが感じられない。こういう場所になるんだというものが伝わってこない。音楽であったり、住みやすい、自然豊かなど、良さはあるが他県にもある。中野市といえばという何かを作ってほしい。4 本柱の下に中野市といえばというものが必要。そういうものがあれば、市民も協力しやすいし、伝えやすいと思う。
委員	何をやっていくかをわかりやすく発信することは重要である。
委員	方向性を強く発信していくことが一番わかりやすい。
政策情報課長	限られた予算の中で、戦略に記載した事業についても、力を入れていく事業を中心に実施していくことになる。全てを同時に実施することは困難であり、

	選定した事業が中野市らしさということにはなる。
総務部長	戦略は効果を検証しながら、必要に応じ改訂しながら進めていく。新しいアイデアなどご提案いただければと思います。

5. その他

会長	その他について、事務局よりお願いします。
政策情報課長	効果検証（PDCA サイクル）について、市長を本部長とした創生本部会議で検証を進めるが、この総合戦略会議においても2年の任期でお願いしているので、効果検証を一緒をお願いしたいと思います。詳細については、今後詰めてまいります。
会長	次回の会議は効果検証をお願いすることになります。

6 閉 会 (20 : 37)

会長	以上をもちまして「第6回総合戦略会議」を閉会します。
----	----------------------------